

# 2007 アメリカ・サクラメント研修旅行 道中記

2009・7・24

| 日付          |             | 主 な 活 動 内 容  |  |  |  |
|-------------|-------------|--|--|--|--|
| 日本          | アメリカ        | 午 前  | 午 後  | 夜  |  |
| 3/22<br>(木) | 3/21<br>(水) | <p>・松山空港集合→結団式<br/>・松山空港→中部国際空港</p> <p>男子8名、女子8名の中学生選手と保護者兼スタッフ2名、コーチ3名の総計21名が参加。</p> <p>早朝の集合にもかかわらず、眠そうな選手はいない。選手の一部は大きな荷物を持って自分で行動することにとまどいを見せる。結団式で必要な書類がどこにあるかで、おろおろする場面も…。大きなアクシデントはなく出発。保護者のほうが心配そう。</p>  | <p>・中部国際空港出発<br/>・(サンフランシスコ空港へ)</p> <p>空港内で少人数のグループを作り、自由に昼食。領収書をもらうことが初体験の選手もいた。出国手続きに緊張気味。国際線の搭乗時、カバンの中でK二のチケットが行方不明に…カバンの中身を全部ひっくり返し、ギリギリのところで見発見。本人曰く「今までで一番あせった…」</p>   | (機内泊)                                    | <p>機内食に興味津々。英単語でそれなりに対応。嫌いなものもすべて食べなければならぬ。時差対策のために眠ることを指示したが、男女共に守れない選手があり、たびたびしかられる。そうこうしながらも、睡眠に…。男子は、大きな身体を窮屈そうに折り曲げて、時にはもたれあって夢の中へ。</p>   |
| 3/23<br>(金) | 3/22<br>(木) | <p>・サンフランシスコ空港→サクラメント空港</p> <p>到着後入国手続き。入国審査は一人一人審査官のいるボックス前に呼ばれパスポートや必要書類を見せ、簡単な質問に英語で答える。選手たちの順番待ちをしているときのドキドキ顔がなんともほほえましい(笑)。通過後の安堵の顔も(笑)。</p> <p>&lt;田臥勇太 in サンフランシスコ空港&gt;</p> <p>乗り換え待ちの間に、Yコーチが、別便に搭乗待ちの田臥選手と偶然遭遇。早速Oコーチが挨拶に…。選手たちと会ってほしいとお願いしたが、混乱を招くので難しいと…(ごもつとも…でも、うちの選手たちは、そこはちゃんと守れます!!と、もつと粘ればよかったと後悔しきり…)</p> <p>それでは記念に…と、Oコーチはジャンパーにサインをしてもらい、記念撮影。(レジェンド松山の大切な宝物です)</p> <p>田臥選手と別れた後で選手たちに報告した時には大ブーイング!!</p> <p>サクラメント空港ロビーに、姉妹都市協会、SASF 関係者、2005松山訪問時のメンバーが出迎えてくださり、大歓迎をうける。選手たちは驚きながらも、大変うれしそう。</p> | <p>・In-N-Outにて昼食(ハンバーガー)<br/>・宿舎にて荷物整理</p> <p>ハンバーガーとフライドポテトの昼食。その大きさに驚く。日本と違う本場のファーストフード店の雰囲気満喫。女子よりも興奮気味の男子のおしゃべりに驚く。</p> <p>宿舎は仏教会。早速家族と庭にあるバスケットリングで1ON1や3ON3。食事の手伝いやかたづけは当然選手たち。片言の英語を駆使する。小さな部屋に簡易ベッド、小さなシャワールームのみ。テレビもなく、必要最低限のものしかない宿舎。この環境が素晴らしい。</p> <p>が、心浮き立ち、荷物の整理が出来ず…雲行きが怪しく…Oコーチの稲妻が…。</p> | ・SASF 歓迎ディナー                             | <p>2006年に完成したSASF専用の体育館フロアで歓迎パーティー。</p> <p>SASF関係者と、ホストファミリーの手作りの心のこもったホームパーティー方式。体育館に調理室が設備されており、すべて手料理。「バスケットボールをデザインしたバスケット」の中にさまざまなプレゼントが入っている。アメリカ方式の歓迎に選手は興奮気味。当日誕生日のY介に、ローソクの立ったかわいいうケーキと風船のプレゼント。</p> <p>全員のハッピーバースデーの大合唱のなかをシャイなY介がはにかみながら歩く。最高の誕生日だね、Y介。</p> |
| 3/24<br>(土) | 3/23<br>(金) | <p>・サクラメント市長表敬訪問<br/>・市役所見学</p> <p>ファーゴ市長にお会いし、中村・松山市長の親書をお渡しし、約40分の歓談。スタッフ選手が英語で自己紹介。</p> <p>H貴がファーゴ市長に「How old are you? (何歳ですか?)」と質問。周りは一瞬の沈黙…。(後にご想像に…)</p>   | <p>・セントラルパークにて昼食(サンドイッチ)<br/>・州庁舎見学<br/>・チーム練習(岡田さん参加)</p> <p>緑が大変多いサクラメント。リスがそばを走る公園にて特大サンドイッチを食べる。大きさは、日本の2倍くらいある。日本ではあまり馴染みのないターキー(七面鳥)サンドにも挑戦。</p> <p>カリフォルニア州庁舎は見学者が大変多</p>   | <p>・SASF“Tip Off”ゲーム<br/>・NBA 選手との交流</p> | <p>SASF専用体育館で、10歳前後の選手によるエキシビジョンマッチを観戦。日本ならば、ミニバスをする年齢の子もたち。平気な顔で一般の高さのリングでプレーする。スキル面はまだまだだが、シュートを決めること、競り合いに負けな</p>   |

|                     |   |  |  |
|---------------------|---|--|--|
|                     | <p>市長へのお土産は、「兜」の置物とお手玉。スタッフ氏のお母様の手作り。新築した市役所を見学。議会議場の市長・議員の席に座るといふ特別な配慮をいただく。</p>   | <p>い。入るときの警備も厳しい。庁舎内にお土産売場がある。アーノルド・シュワルツネッカー知事の部屋も見学。知事には会えなかった。州庁舎見学後、SASF会館にて練習。</p> <p>プロバスケットボールABA/サクラメント・ヒートウェーブ所属の日本人選手・岡田卓也選手と、ヘッドコーチ・レジー氏の特別指導を受ける。岡田選手は、レジェンド松山のサクラメント体験旅行の話を知り、直々に連絡を下されたことで、今回の対面が実現。日本の練習と違い、コンタクトへの強さや、シュートカアップ、メンタルタフネスを求めるような練習が多く、選手は練習開始早々から汗だく。選手のモチベーションをうまく引き出してくれる内容や指導法に、私たちスタッフも大変有意義な時間だった。</p> <p>(その後も岡田選手との交流は続き、2007年秋、2008年冬と、松山で2回のクリニックを行っていただきました。)</p>  | <p>いこと、ボールを奪うことへの執着心の強さに驚く。周りで見ている大人や、中高生がナイスプレーに感嘆の声を上げ大拍手。叱咤より声援が多い。</p> <p>夕食は、体育館の外でボランティアの方々がテントを張り、いすやテーブルを設置し、ビーンズカレーやホットドックを提供して下さる。体育館の中では、SASFスタッフ制作のスライドを見て盛り上がり、NBA・キングスの Kevin Martin 選手との交流など、貴重な時間を過ごす。</p> |
| <p>3/25<br/>(日)</p> | <p>3/24<br/>(土)</p> <p>・SASF トーナメント第1日<br/>レジェンド松山・サムライ (男子)    レジェンド松山・マドンナ (女子)</p> <p>男子 第1戦: Sacramento rebels 2009<br/>第2戦: S.F.Taisho (2戦: 0勝2敗)</p> <p>相手はトーナメントのトップレベルチーム。Sacramento rebels 2009 はオフェンスフットワークの巧みさに、S.F.Taisho はタフネスさに優れていた。外角のドリブル等への1ON1の粘りは日本選手のほうが上手であったが、相手はシュートセレクションに優れ、粘ってもショットまで持っていくまさが目立った。サムライと際立って違いが感じられたのは、フィジカル面と勝ちへの執念だった。相手は「やるべきこと」として空中、地上のルーズボール、ボックスアウトを「しっかり」行い、少々のシュートファールはねじ込んでしまい、バスケットカウントにしまった。ゴール下の競り合いに関してガシガシに取り合う経験は、アメリカでないと出来ないと感じた。また、ゲーム開始後、即スイッチONの状態に持っていき集中力の高さに感心したが、点数が競り合い始めると「ここ」という数分間をさらに一致団結し、点を取り、守りきるチーム力も、サムライの選手にはとても勉強になったと思う。サムライは1番のK太郎(K)の冷静かつ巧みなリードと2番N也のパスまわしから、3番のK二がペネトレートからのダブルクラッチで相手ブロックをはずして得点を重ねた。4、5番のD介の優れたジャンプ力のリバンドや、K太郎(O)のペビーフックショット、Y樹のフィジカル面の強さを生かした果敢な攻め、Y介のていねいなプレー等で観衆を沸かせた。前日まで高熱を出し、ゲーム参加が危ぶまれたH貴がさすがの執念(?)で回復し、要所々でチームをまとめた。サムライの選手たちは最高の集中力と闘争心でこれまでの練習の成果を出し切り、戦い抜いたが、相手はそれ以上だった。メンタル面、フィジカル面の違いはもとより、常日頃のバスケットボールに取り組む姿勢の違いが大きいと思った。</p> <p>女子 第1戦: S.F.Enchantees C8<br/>第2戦: Central Cal Cobras (2戦: 1勝1敗)</p> <p>女子のスキル面においては、相手をかなり上回っていたと思う。キャプテンMかがしっかりチームをまとめ、ゲームの入り方も素晴らしかった。S織が、広い視野をいかし、この日抜群にさえたパス回しで選手をリードした。3番Mきは、しっかりと身に付けた1ON1の技術で得点を重ね、マークされると、4、5番によいパスを送った。フィジカル面で負けていないY枝はピポットを使ったポストアクションで点を取り、M佑はリバンドと、苦手を走ることががんばった。小学校はバスケ、中学では陸上を選んだK子もゲームに出場し、ポストアクションと、リバンドでゴール下を制しようとした。S貴はオフェンス、ディフェンス両面とも、これまで学んだ事を生かそうとひたむきにプレーし、M紀は与えられた時間を大切に、チームの流れ、リズムを壊さないように懸命にプレーした。マドンナ全員、時間をおうごとにうまくなって</p> | <p>・SASF“Social”<br/>・ダンスパーティー</p> <p>ボウリング場2FでSASFボランティアスタッフ手作りの夕食。バイキング式でお変わり自由。選手に笑顔が絶えない。食事後、1Fでボウリング。女の子たちは、この後のダンスパーティー用の華やかなドレスにボウリングシューズをはいて飛び回っている。ホテルに移動して、ダンスパーティー。会場入り口には警備のガードマンがあり、関係者以外は入れない。選手たちは、サクラメントの選手たちと、もう友達になっている。言葉が通じにくい不自由さなど、ちっとも感じていないように見える。結構英語のしゃべれるK太郎(O)は、選手の助っ人役。</p> <p>翌日も試合を控えているが、こうしてにぎやかにパーティーが行われ、はしゃいでいる。そこに大人はほとんどいない。子ども任せ。すべての子どもがそうではないが、自由と責任、気持ちの切り替えを小さなときから教えられ、体験しているからだろう。考えさせられる。</p> <p>1時間ほど放っておいたら、多くの選手が満足して出てきた。名残惜しそうな選手もいた。写真を撮り合い、別れる。選手たちとこれまでずっと付き合ってきて、初めて見る顔つき・・・。</p> <p>笑顔という言葉では伝えられない。遊んでいるときの楽しそうな顔でもない。心のそこからあふれる充実感がこの顔つきを作り出すのだろうか。</p> <p>選手たちのこんな顔を見ることが出来て、たまらなくうれしい。</p> |  |

|             |             |   |  |   |
|-------------|-------------|---|--|---|
|             |             | <p>いく姿が見え、コーチたちはとてもうれしかった。</p> <p>第1戦では終始リードしていたが、勝負どころで相手の爆発的な集中力から、シュートやリバンドの確率が一挙にあがり、逆転されて1点差で負けた。第2戦は、初戦の悔しさもあり、最後まで集中力を切らさなかった。オフェンスでは、選手個々の特長を最大限に表現でき、ディフェンスでは足を生かして相手の攻撃を封じ込め、今大会の初勝利をつかんだ。女子はマドンナのほうが総括的にレベルが高いと感じた。</p> <p>今大会では、日本とサクラメントの選手における集中力の配分の違いと勝負どころの読みとゲームの運び方の巧みさ、強さ、がんばりどころの違いを体験した。盛大なトーナメントではあるが、得点板が故障していたり、審判が遅刻したり、日本では考えられないアクシデントがあった。</p>   |  |   |
| 3/26<br>(月) | 3/25<br>(日) | <p>・SASF トーナメント第2日<br/>レジェンド松山・サムライ(男子) レジェンド松山・マドンナ(女子)</p>  | <p>・ホストファミリー宅へ</p>   | <p>・姉妹都市協会歓迎ディナー</p>  |
|             |             | <p>男子 第3戦: Eden Athletic Club (1勝)<br/>昨日これまでに出したことのない全力で戦ったからだろう。サムライたちの筋肉は非常に硬い。軽くほぐすマッサージを行い、ゲームに臨む。サムライたちはよい意味でリラックスしながら、ゲーム時には集中力を欠かさず、それぞれが自分の役目を果たし、シーソーゲームをものにした。たった一日なのに、昨日の経験がサムライたちを変えている。コーチとしてはじめて彼らを「カッコイイ」と感じた。常にひたむきにプレーし、チームを引っ張ったH貴が優秀選手に選ばれた。</p> <p>女子 第3戦: Bay Area Asian Sports Dragons (1勝)<br/>昨日の経験を生かし、集中力を途切れさせることなく対戦した。ゲーム運びに余裕が出、緩急のついたプレーが多く見られた。チームワークが抜群で、日本とは違った雰囲気の中で、思い切りバスケットを楽しんだ。<br/>攻防のプレーの要として安定した力を発揮したS織が優秀選手に選ばれた。<br/>トーナメントの会場は高校の体育館。どの体育館にもかならず観客席がある。「サクラメント・トーナメントによこそ！」の横断幕が歓迎してくれる。スタッフ・選手たちは、SASFより配られた10ドルのクーポン券で、体育館のそばに大会のために設置された「売店」で昼食や飲み物を買う。ヌードルやおにぎりもある。アメリカらしい原色の飲み物もあり、選手たちは買い物を楽しんでいる。「コーチ！飲んでみますか？」と差し出してくれたジュースはむちゃくちゃ甘かった……。</p> | <p>ゲーム終了後、会場から直接ホストファミリー宅へ移動。ファミリーは、トーナメントに参加している選手の家族がほとんどなので、ゲームの話題で盛り上がったらしい。<br/>4日間のホームステイだが、2005の松山訪問時にホームステイ先が大変良くしてくれたお礼がしたいと、選手たちをとても大切に思ってください、たくさんの思い出を作ってください。</p>         | <p>現地の姉妹都市協会名誉顧問、ヒロコ・ノミヤさんが中心となって、SASFメンバーや市役所の方々、ホストファミリーをお迎えして、歓迎会を開いてくださる。会場は、とても大きなバイキング料理店。肉やピザはもちろんのこと、中華、イタリアン、和食などさまざまな国の料理のコーナーがある。魚や、焼きそばなどは自分の好みの材料を持っていけば、その場で焼いてくれる。選手は休みなく各コーナーを訪れ、それぞれのホストファミリーと一緒に食事と会話を楽しんでいた。英語は片言なのに、べらべらしゃべっているように盛り上がっていることに驚いた。<br/>これまでの手作りパーティーとも合わせて、心からの歓迎に感謝・感謝。古くからの友人をもてなしてくれる様な現地の皆さんのおもてなしに一同感激。<br/>姉妹都市協会の方々からいただいたお土産は、選手のことを心から考えてくださったもので、大変ありがたく、うれしかった。</p> |
| 3/27<br>(火) | 3/26<br>(月) | <p>・ラリーフィールド(野球場)見学<br/>・オールドサクラメント見学</p>   | <p>・オールドサクラメントにて昼食(ピザ)<br/>・サクラメント動物園</p>  | <p>・バスケットボールクリニック<br/>・元 WNBA 選手との交流</p>  |
|             |             | <p>3Aに所属するリバーキャッツの本拠地を見学。ゴミひとつなく清掃された球場内、素晴らしく整備された芝生、ロッカールームや放送室、スタンドなど設備の整った施設に驚いた。外野にいない場所がある。家族、友人が大勢でシートを敷いて、団欒しながら野球を楽しむことができるようにとのこと。<br/>3A (Attitude, Attendance, Academic)<br/>打撃練習ができるネット内で、なんと試打体験。思いっきりバットを振る。でもほとんどの選手が空振り。大爆笑！！2006年には、日系人選手の在籍もあり。<br/>オールドサクラメントでは、古い歴史を感じることで建物が並び、タイムスリップしたみた</p>  | <p>ピザとコーラで、The Americanな昼食。ピュウフェ形式の食事にも、かなり慣れ、スムーズに食べ始める。<br/>ボランティアのガイドさんについていただき、3班に分かれて、動物園探索開始。あいにくの雨で、動物たちもやや引きこもり気味の中、大きなヘビにさわることのできるコーナーで、プチ度胸試し大会開催。男子よりも、女子の方が積極的だったような…。</p> | <p>地元のマクラッチ高校のコーチ・タハラのクリニックを受ける。彼は年間最優秀指導者に選ばれた、とても有名なコーチ。コーチ・タハラとともに、SASFメンバーの元バスケットボール選手が、とてもいい熱心に指導してくれる。良いプレーがあると、とても誉めてくれ、選手たちの笑顔が輝いている。<br/>休憩になると休むところか、すぐ3ON3が始まったり、そのプレーを見ていたコーチたちが、3対3の指導を始めたりと、日本とはまったく違う体験をした。<br/>元WNBA選手の RUTHIE BOLTON が訪れ、オリンピックの金メダルや優秀な</p>   |

|             |             |  |  |   |
|-------------|-------------|--|--|---|
|             |             | い。町並みを行く馬車にのったり、風景を楽しんだりしながら、家族へのお土産を選ぶ。疲れからか、体調を崩す選手が出た。  |  | 選手に贈られるダイヤをちりばめた指輪を見せてくれながら、自分の体験談や、バスケットに対する考え方を話してくれた。選手たちは、金メダルを首にかけてもらって一緒に記念撮影。本当に嬉しそう。  |
| 3/28<br>(水) | 3/27<br>(火) | <p>・UC Davis(大学)見学</p> <p>学生ボランティアの方が学内を案内。松山市出身のM・Iさんが留学中で、とても親切に、ていねいに案内してくださった。緑の多い敷地内をバスで移動するくらい広大な中に校舎があり勉強、スポーツのための施設が充実している。コート4面のメインジム、フィットネス施設、ロッククライミング施設、ダンススタジオ等々、充実した施設。バスケット専用体育館はゆったりと2面が取られ、観戦用の階段席がある。日本なら十分公式の大会が開催出来る。UC Davisのブックストアで、お土産購入。文房具や本は勿論、学校のロゴが入った多くのグッズや、ウエアまである。私たちがカードで支払う場合、パスポートの提示が必要。ストアの出口にはセンサーが設置され、監視員がおり代金未払いのまま出られないようになっている。日本の大学の売店とは、全く違う規模。</p>   | <p>・UC Davisにて昼食(学食)</p> <p>・ショッピングモールにて買い物</p> <p>学食とは思えない広さの中に、各国の料理コーナーが設けてあり、専用のシェフがいる。日本ならお店としてやっても十分通用する作りと味で、選手が何を食べるか迷うほど。ショッピングモールも予定の2時間ではとても回りきれない広さとお店の数。選手が一番人気はやはりスポーツ店。シューズやウエアが巨大な倉庫のようなところに数多くそろえてあり、サイズも豊富。旅行かばんや、ブランド品も人気。限られたお小遣いを有効に使うため、男子はホストファミリーからもらった1枚の「20%off クーポン」を全員で活用しようと、一斉にレジに並ぶ。慣れないアメリカドルでの足し算・引き算にてこずり、集合場所に時間ぎりぎりに滑り込みセーフ。両手を広げて見せてくれたレシートの長さに、買い物への執念を感じた。(笑)</p>   | <p>・バスケットボールクリニック</p> <p>コーチ・タハラや2005キャメリアマッチに来日してくれたブランドンと一緒にクリニック。BOXを使ったトレーニングなど、日本の選手が体験したことのないような珍しい項目も体験できた。ポディーコンタクトに対する練習や、シュートフォームの指導など、細かいところまでいねいに教えてもらえ、子どもたちも充実した顔つき。SASF関係者も、近所のオジサマがふらつとのぞきにきたような格好だが、ボールを持って、軽くシュートを始めると、きれいなフォームで次々と決めていく。スポーツ文化が生活の一部となっており、日本との違いを目の当たりにした。終了後、コーチ・タハラの「コーチ・オブ・ザ・イヤー」受賞のお祝い。</p> |
| 3/29<br>(木) | 3/28<br>(水) | <p>・サンフランシスコバスツアー</p> <p>・チャイナタウン、ケーブルカー、</p> <p>・フィッシャーマンズワープ</p> <p>バスの中はSASFメンバー主催のビンゴゲームで盛り上がる。(なぜか景品を独り占めしてしまうH父娘。強い！！)</p> <p>チャイナタウンは異国情緒豊かで、小物の人気が高かった。</p> <p>有名なケーブルカーは車体の外側に立ち、急角度の坂の上り下りと、町並み、時折見える水平線を楽しんだ。昔の漁師町(漁港)の風情を残したフィッシャーマンズワープ。建物が海にせり出し、海軍の将校が歩くとびつたりの町並み。大道芸人や、観光客も多いが、時間がゆったりと流れている。スケジュールの関係で、そこをせかせかと歩いたことが残念。</p> <p>毎日、ずっとシャッターを切り続けているスタッフH氏とF氏。H氏は車、ナンバープレート、列車、建造物等日本にないものに興味津々。F氏は選手の動作や表情の変化を瞬時に捉える名人。選手たちのとても素敵な記録写真がいっぱい！！</p> | <p>・フィッシャーマンズワープにて昼食</p> <p>・パン工場</p> <p>・ゴールデンゲートブリッジ見学</p> <p>昼食はカニ料理を満喫。ぶりぶり感はないが、甘みがありおいしい。すぐに、お皿にかにの殻の山！！店のすぐそばの海のかいだの上でたくさんのアザラシがお昼寝中。日本にはない雰囲気。地元で有名なパン工場見学。かにやワニなどを細部にわたり見事にかたどったものや、さまざまなチーズやハーブ、香辛料を入れたパンなど数多く、このパンはバースデーやホームパーティーのときに大量の注文が来るほど人気の高いお店だそう。昼食後にもかかわらず、選手は試食品をバクバク。ゴールデンゲートブリッジは、渡るときの海の広大さとその先の町並みのコントラストが最高。ゴールデンゲートブリッジのたもとで休憩中、宇和島からの観光客と偶然遭遇。地元話に花が咲く。そこから見える海に浮かぶアルカトラズ島。海に飛び込んだら複雑な潮流のため、浮き上がることが出来ず、脱獄が絶対不可能といわれた監獄</p> | <p>・ホストファミリーとの交流</p> <p>(Yコーチ談)</p> <p>ホストファミリーと、「コーチ・カーター」のDVDを鑑賞。バスケットボールの話だったので、見易かったけれど、もちろん字幕なしの映像だったため、知っている単語を拾いながら、なんとかあらすじを理解した感じ。ときどき、ホストファミリーが「アハハ」と笑うジョークを理解できないのが残念…次こそはもっと英語を勉強していかなければ。</p> <p>子どもたちは、買い物に行ったり、家にあるバスケットコートで(帰ってからさらに)一緒にバスケットボールをしたり、それぞれのホストファミリーと楽しんだ模様。</p>                                      |

|             |             |  |   |  |
|-------------|-------------|--|---|--|
|             |             |  | 島。現在も囚人がいると勘違いしていた選手も…。   |  |
| 3/30<br>(金) | 3/29<br>(木) | <p><b>・ホストファミリーの学生と学校へ</b></p> <p>(Yコーチ談・・・)</p> <p>選手たちは、それぞれのホストファミリーの子どもが通う学校へ、1日留学生体験。日本の学校と比べ、学校・教室の雰囲気や授業の進め方の違いに、多少戸惑いながらも、文化の違いを理解し、楽しめるようになってきた子どもたち。ただ、英語だらけの環境はやはり不安なようで、校内でレジェンドの選手と会うと「こっちはこんなことしたんよ～」と日本語をしゃべれる相手との会話でお互い安心し合っている様子だったとか。</p> <p>後で聞いたら、授業中居眠りしそうにもなっていたとか……(喝！！！！・Oコーチ)</p> <p>(Yコーチの体験)</p> <p>留学生のクラスを見学。日本の中学生が勉強するような、数やあいさつなど、真剣な顔で学ぶ生徒たち。ただ、真剣な中にもおおらかさがあり、リラックスした状態で勉強ができています。日本のように、先生が黒板の前で一方向的に伝えるのではなく、先生と生徒のキャッチボールのような会話がとても印象的だった。</p>  |   | <p><b>・SASF お別れディナー</b></p> <p>SASFの体育館内で行われた。大量のおすしの上に「SAYONARA」の文字。選手同士はすっかり打ち解け、あちこちで大騒ぎ。ホストファミリーの方が徹夜で仕上げてくれた、今日までの選手たちの交流の様子のスナップがスクリーンに映し出されたときは、さすがにしんみり。個々にメッセージカードがついたプレゼントをもらったり、写真を撮り合ったりと、別れを惜しむ。レセプションがすべて手作りであったことが、肩の力が抜けた笑顔の多いお別れ会につながった。</p>  |
| 3/31<br>(土) | 3/30<br>(金) | <p><b>・サター・ミドル・スクール見学</b></p> <p><b>・クニ・ヒロナカさんのお墓参り</b></p> <p>道後中の姉妹校を訪問。女子選手2名は道後中の生徒。校長先生にご挨拶後、授業中の教室に入り、生徒と言葉を交わす。そんなことはごく普通のことに驚かないスクールの生徒たち。みんな気さくに「Hi！！」と挨拶してくれる。日本語で話しかけてくる子も。教師の中に有名なアメリカンフットボールの元選手や、バスケットボールの指導で高い評価を得ているコーチがおり、話を聞いたり写真を撮ったり。元選手の教師は、日本ならば「自慢」と取られる話を誇らしげに情熱的に語る。それをまた、誇らしげに聞き、称えるSASFのスタッフ。この環境こそが、素晴らしい選手を育てる原点だと感じた。スクールの生徒のほとんどが、道後中と姉妹校であることを知らなかったのはとても残念。</p> <p>故クニ・ヒロナカさんのお墓参り。クニさんは日系人。2001年の視察から、2003年の初訪問、2005年の来松と、これまでの交流に心血を注いでくださり、私たちの不安をいつも笑顔で包んでくださった。</p> <p>日本のお墓と違い、部屋の中に50cm四方のケースが何段か重ねられ、総数30個くらいの中のひとつに骨箱とともに遺影、遺品が飾られている。祭壇は別のところに1箇所あり、そこにお花や供物、選手手作りの折鶴を供える。「クニさん、あなたのおかげで今日があります・・」とご挨拶。遺族は遺影に手をかざし、手を合わせ祈る。終了後は供物を部屋の外で全員がいただく。</p> <p>クニさん、もっともっと長生きしていただきたかった。そして、にっこり微笑んでのクニさんの口癖“Good Job !!”をききたかった。</p> | <p><b>・ホテルにて昼食(ピザ)</b></p> <p><b>・ショッピングモールにて買い物</b></p> <p>SASFのスタッフがわざわざホテルの食堂に手作りサラダとピザを持ち込み、ご馳走してくれる。疲れから選手はなかなか動かず、スタッフの問いかけにも、だらだら・・。昼食終了後、ホテルの一室に集合した選手全員に、Oコーチの最大級の怒かみなり。</p> <p>「あれが、これまであなたたちを心からもてなしてくれた方々の懸命の思いに対する態度かぁ！！！！！！」</p> <p>体験旅行もあとわずか。スーツケースに残されたスペースと財布の残高と相談しながら、お土産リストを片手に買い物を楽しむ選手たち。</p> <p>異国の雰囲気にも、英語だらけの環境にもすっかり慣れ、買い物もずいぶんスムーズになった様子。</p> | <p><b>・NBA 観戦</b></p> <p><b>[キングスVSクリッパーズ]</b></p> <p>観戦前に、バックヤードの見学。誰もが出来るものではない。</p> <p>SASFのおかげで体験できるVIP待遇がありがたい。選手の家族が試合を観戦する部屋や、控室、駐車場なども案内してもらおう中で、車から降りてきて会場入りする選手にも至近距離で遭遇。試合開始前には、アリーナ席で選手のシューティング見学。間近で見る“ホンモノ”に選手も圧倒されている様子。試合直前にもかかわらず、ファンの声援に応え、気さくにサインに応じる選手もあり、スポーツが文化として根付いている環境が素晴らしい。</p> <p>肝心の試合は、最上段からの観戦にも、日本の選手たちは大興奮。試合の合間のアトラクションで盛り上がり、チームの応援グッズを振り回したり、心から楽しんでいる様子だった。</p> <p>中には、ホストファミリーが持っているシーズンシート(ベンチ裏5列目くらい)に招待され観戦させてもらった選手もあり、大満喫できたようだ。</p> |
| 4/ 1<br>(日) | 3/31<br>(土) | <p><b>・サクラメント→サンフランシスコ</b></p> <p><b>・サンフランシスコ→中部国際空港(機内泊)</b></p> <p>早朝の出発にもかかわらず、たくさんの方がたの見送りを受け、ハグ・ハグと涙・涙のお別れ…。</p> <p>飛行機の乗り継ぎや荷物の受け渡しはとてもスムーズ。待ち時間中の空港内での買い物も、時間をしっかり把</p>  | <p><b>・中部国際空港→松山</b></p> <p><b>・解団式</b></p> <p>松山行き飛行機に滑り込む。小さい飛行機のため、レジェンド松山一行の搭乗に時間がかかり、飛行機の出</p>   |  |

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
|  | <p>握しながら、余裕を持って行動している。初めての海外体験旅行だったのに、選手たちの順応性にたくましさを感じる。機内では楽しかった日々のおしゃべりに花が咲く選手と、黙って物思いにふける選手と対照的。</p> <p>やっと到着した中部国際空港で、最後の大アクシデント！！</p> <p>数名の選手のスーツケースとチームのケースがない！！！！</p> <p>からっぽで回転する荷物コンベアー！！！！</p> <p>空港職員が大慌てで対応してくれる。</p> <p>松山行き飛行機出発まであとわずか！！</p> <p>確認作業と今後の処理方法を十数分で決断！！</p> <p>普通の搭乗口ではないゲートを、職員の懸命の手招きに導かれ、選手とスタッフは猛ダッシュ！！！！</p> | <p>発が少し遅れる。アクシデントを知らないお客様の視線がいたい…………。</p> <p>無事松山空港着。芸能人が到着したかのような、保護者の方たちのお出迎え。</p> <p>選手たちのホットした顔。どんなことがあったのか、早く聞き出したそうな保護者のお顔。</p> <p>レジェンドスタッフは選手たちと無事帰松でき、一安心。</p> <p>後日、帰国を嫌がり、アメリカにとどまっていたスーツケース達も無事帰還。</p> | <p>これにて、サクラメント珍道中記終了！</p> <p>(文責・大野加壽子)</p> |
|--|--|--|---|